

## 令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立海道小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

令和4年4月19日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

#### 4 本校の実施状況

第4学年	国語	30人	算数	30人	理科	30人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	22人	算数	22人	理科	22人
------	----	-----	----	-----	----	-----

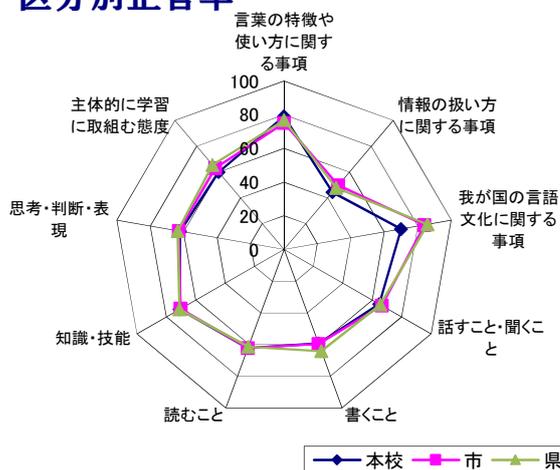
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立海道小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	79.0	75.1	76.7
	情報の扱いに関する事項	44.4	49.6	47.8
	我が国の言語文化に関する事項	70.0	84.0	85.9
	話すこと・聞くこと	64.7	66.5	65.5
	書くこと	59.2	59.6	64.2
	読むこと	62.2	62.2	61.5
観点	知識・技能	71.0	70.2	71.1
	思考・判断・表現	62.2	62.9	63.6
	主体的に学習に取り組む態度	60.0	63.0	65.5



## ★指導の工夫と改善

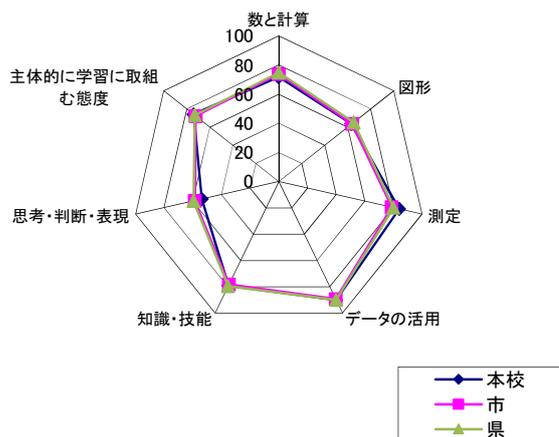
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	平均正答率は、市・県の平均より高い。 ○第3学年に配当されている漢字の読み書きはすべて市や県より上回っている。 ●ローマ字で表記されたものを正しく読む問題の正答率が市や県より10ポイント以上低い。	・漢字の学習において読み書きの他に漢字の意味や使い方も併せて学習することで、文や文章の中で適切に使える活用力の獲得を目指す。 ・家庭学習や朝の学習、英語活動などでローマ字に親しむ活動を多く取り入れ、定着を図る。
情報の扱いに関する事項	平均正答率は、市・県の平均より低い。 ●情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見つけて要約する問題の正答率が市や県より10ポイント以上低い。	・話や文章に含まれている情報を取り出して整理したり、その関係を捉えたりする活動を、授業の中で多く取り入れていく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市・県の平均より低い。 ●漢字のへんやつくりに関しての問題の正答率は、市や県の正答率より14ポイント以上低い。	・漢字の学習において、漢字のへんやつくりなどから、漢字を調べたり、漢字の読み方を推測したりする活動を多く取り入れ、漢字の構成を理解させる。 ・漢字の特徴を捉えて楽しく練習できるように、活動を工夫する。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市・県の平均よりやや高い。 ○話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えるという問題の正答率は県の正答率を13ポイント以上上回っている。 ●互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめる問題が市の平均より14ポイント以上低い。	・教科・学級活動での話し合い活動の充実を図り、話したり聞いたりする活動を習慣付けていく。 ・話し合い活動の内容を振り返り、どんな内容だったか短い言葉でまとめる活動を日常生活の中に多く取り入れていく。
書くこと	平均正答率は、市・県の平均より低い。 ●自分の考えとその理由を明確にして文章を書く問題や指定された長さで文章を書く問題の正答率が低く、記述問題に課題が見られる。	・児童にとって興味関心がわくようなテーマを選んだり、字数制限付きの短い文章を書かせたりすることで、書くことの楽しさを味わわせる。 ・日頃から、自分の考えを明確にして相手に伝える活動を習慣付けていく。
読むこと	平均正答率は、市・県の平均とほぼ同じ。 ○文章を読んで感じたことや分かったことを共有する問題が市や県の正答率より10ポイント以上高い。	・積極的に学校図書館を利用し、文章を読む機会を多く設ける。 ・教科書以外の文章を読み取り、内容を理解できるようにする活動を工夫し取り入れることで、長い文章も抵抗なく読めるようにする。

# 宇都宮市立海道小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	71.8	73.8	74.8
	図形	63.3	63.7	65.3
	測定	84.0	78.9	80.1
	データの活用	90.0	89.3	90.0
観点	知識・技能	79.1	78.3	79.5
	思考・判断・表現	53.8	58.6	59.5
	主体的に学習に取り組む態度	74.2	72.3	73.1



## ★指導の工夫と改善

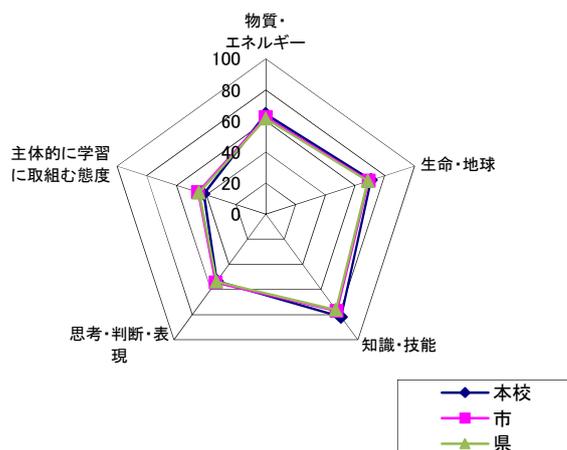
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市・県の平均より低い。</p> <p>○小数のしくみの理解やたし算・ひき算、かけ算の計算については、市や県の正答率を上回っている。</p> <p>○口を使った文章問題(乗法の場面)を表した図の構造をとらえる問題や、口を使って乗法の式に表す問題は、市や県の正答率より高い。</p> <p>●分数の問題では、分子が1の分数が何個で1になるかを理解しているかをみる問題や、数直線上に示された分数を読み取る問題は、どちらも市や県の正答率より低い。分数の学習に課題が見られる。</p> <p>●暗算のしかたなど、理由を説明する問題の正答率は、市や県より18ポイント以上低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な計算については、今後も朝の学習や家庭学習の中で、計算ドリルやAIドリル等を活用して繰り返し練習を行い、学習内容の定着を図る。</li> <li>・分数については、図や数直線を使いながら、分数の意味や分数の大きさを理解できるようにする。</li> <li>・様々な計算方法は形式的に覚えるだけではなく、計算の過程も説明できるように指導していく。</li> <li>・文章問題を解く際には、具体物を使うなど場面をイメージさせる活動を多く取り入れ、問題の意味を正確に理解し、説明ができるようにする。</li> </ul>
図形	<p>平均正答率は、市・県の平均より低い。</p> <p>○円の直径の問題では、正答率が90.0%と高く、市や県の平均を上回っている。</p> <p>●円の中心と円周上の2点を結んでできる三角形が二等辺三角形になる理由を説明する問題の正答率は、3.3%と低く、県の平均より約10ポイント低い。根拠をもとに説明することに課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活の中にある図形について、日頃から話題に挙げることで、児童に関心をもたせる。</li> <li>・コンパスや定規などを使用して作図をする際には、児童一人一人の様子を把握し、個に応じた指導をしながら理解が図れるようにする。</li> <li>・具体物の操作活動や、実物投影機などのICTも活用しながら、図形の性質を視覚的に捉えさせ理解できるように指導する。</li> <li>・自分の考えを根拠をもって説明できる力を身に付けるために、理由を加えて発表したり、友達の考えに反応したりするような話し合い活動を適切に取り入れていく。</li> </ul>
測定	<p>平均正答率は、市・県の平均より高い。</p> <p>○2つの時刻の間の時間を求める問題は、市や県の平均より12ポイント以上高い。</p> <p>○身近にあるものの重さを推察し、適切な単位を使って表す問題は、市や県の平均より10ポイント以上高い。</p> <p>●1分=60秒の関係の理解に課題がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も、時ごとと時間においては、日常的に時間の感覚を意識するような機会を設定し、定着を図る。</li> <li>・日常生活の中で長さや重さなどの大きさを推測する機会を意図的に設けたり、長さや重さの学習では、具体物の操作や体験活動等を多く取り入れ、児童が意欲をもって課題解決に取り組んだりできるように指導する。</li> </ul>
データの活用	<p>平均正答率は、市・県の平均と比べてほぼ同程度である。</p> <p>○棒グラフを読み取る問題は、どれも正答率が9割であった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の中で、身の回りの事象について、児童の興味・関心や問題意識に基づき、表と棒グラフに表す活動などを位置付け、身近なものとして感じられるよう課題の工夫を行う。</li> </ul>

# 宇都宮市立海道小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	64.4	62.5	61.5
	生命・地球	70.7	69.2	68.6
観点	知識・技能	81.8	77.2	76.3
	思考・判断・表現	53.3	54.4	53.7
	主体的に学習に取り組む態度	41.7	45.5	44.9



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、県・市の平均より高い。</p> <p>○音の伝わり方を問う問題において、90%の児童が正答しており、県・市の正答率を上回っていた。</p> <p>○風の強さと車の動く距離の関係を問う問題において、90%の児童が正答しており、県・市の正答率を上回っていた。</p> <p>○物の重さは置き方や形で変化するかを問う問題において、93.3%の児童が正答しており、県・市の正答率を上回っていた。</p> <p>●糸電話の音の伝わり方を問う問題において、県・市の正答率を下回っていた。</p> <p>●鉄くぎがどのような磁石になるのかを問う問題において、県・市の正答率を下回っていた。</p>	<p>・学習した内容が身近な生活や社会の中でどのように生かされているのかを考えることで興味をもって主体的に学習に取り組むことができるようにし、理解が深まるようにする。</p> <p>・実験や観察の前には、問題意識をもって取り組むことができるよう、課題をつくってから取り組むようにし、結果を考察する時間を十分に確保しつつ、まとめる活動を繰り返し行い理解を図るようにする。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は、県・市の平均より高い。</p> <p>○植物の育ち方を問う問題において、90%の児童が正答しており、県・市の正答率を上回っていた。</p> <p>○昆虫の育ち方を問う問題において、96.7%の児童が正答しており、県・市の正答率を上回っていた。</p> <p>○昆虫の体のつくりで足がどの部分についているかを問う問題において、96.7%の児童が正答しており、県・市の正答率を上回っていた。</p> <p>●虫眼鏡の使い方を問う問題において、県・市の正答率を下回っていた。</p> <p>●影ふみ遊びにおいて、太陽のある位置と影のでき方の関係をもとに、影をふまれにくい逃げ方を説明する問題において、県・市の正答率を下回っていた。</p>	<p>・体験的な活動を多く取り入れるとともに、情報機器を利用し映像資料等を効果的に活用し理解を図る。</p> <p>・実際に体感したことで理解が広がるように取り組み、理科学習が充実するよう学習環境を整備し、理科に対する興味関心が高まるような授業の導入や展開を考える。</p>

## 宇都宮市立海道小学校 第4学年 児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」の肯定的回答は、県平均を15.9ポイント上回り、約9割であった。音読や漢字練習などの、計画的な家庭学習への取り組みが効果的であったと考えられる。今後も、日々のチェックと励ましに努めていきたい。

○「毎日の生活が充実していると感じている」と回答した児童の割合は9割以上で、県平均を11.7ポイント上回った。「先生は学習のことについてほめてくれる」「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」の肯定的回答も高いことから、学校や家庭で温かく見守られながら生活することで、充実した毎日を過ごせていると考えられる。

○「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている」の肯定的回答は100%で、授業中はもとより、日常生活でも相手の顔を見て、話を最後までよく聞くよう指導してきた成果が表れている。

○算数・理科の授業の内容が分かると回答した児童の割合は100%、国語や社会でも9割以上の児童が「分かる」と回答している。教材研究をしっかりと行うとともに、個に応じた丁寧な指導をしてきた成果と考えられるので、今後も一人一人を大切にしながら、わかりやすい授業展開に努めていきたい。

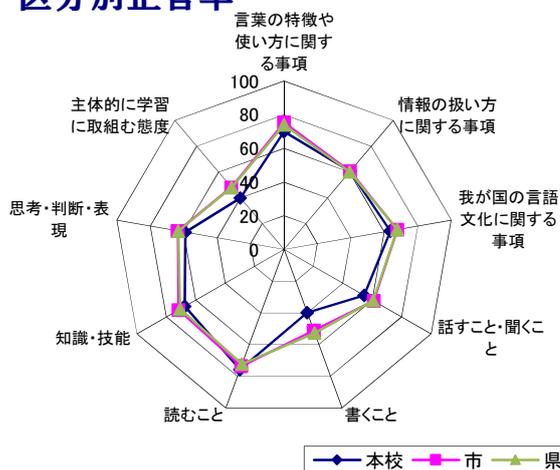
○「算数の授業で問題のとき方や考え方が分かるようにノートに書いている」と回答した児童の割合は、県平均を14.4ポイント上回り、9割以上が肯定的な回答だった。昨年度の学校課題研修で算数の授業研究に取り組み、児童が自分の考えをしっかりと、それを書くという学習活動が定着してきた成果の表れだと考えられるので、今後も継続して指導していく。

●「自分の行動や発言に自信をもっている」と回答した児童の割合は低く、43.4%だった。その一方、「自分のよさを人のために生かしたいと思う」「自分も持っている能力を十分に発揮したい」と回答した児童は9割以上いた。自分のよさや能力を生かしたいという児童の意欲を大切に、得意分野で活躍できる場を設定したり、自己肯定感を高められるように励ましたりするなど、自信をもって行動できるような指導を推進していきたい。

# 宇都宮市立海道小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	70.0	75.4	74.1
	情報の扱い方に関する事項	60.6	60.5	60.2
	我が国の言語文化に関する事項	63.6	67.7	67.8
	話すこと・聞くこと	54.5	61.0	60.7
	書くこと	39.8	51.2	52.8
	読むこと	75.8	73.7	72.4
観点	知識・技能	67.5	71.7	70.6
	思考・判断・表現	59.1	63.5	63.2
	主体的に学習に取り組む態度	40.0	48.2	48.1



## ★指導の工夫と改善

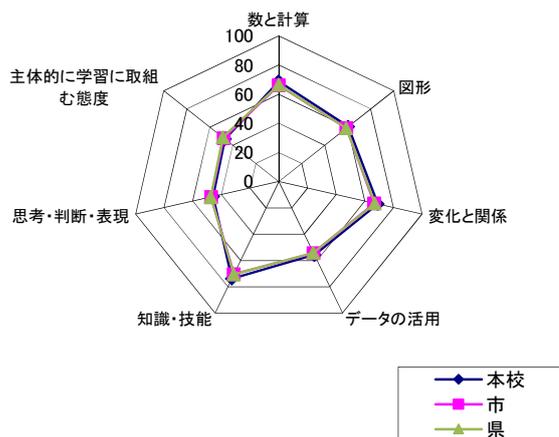
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は県・市の平均より低い。 ○漢字の読みに関しての正答率は100%であった。 ●漢字の書き、連用修飾語に関する問題の正答率は、県や市より低い。	・今後も漢字の学習において丁寧な指導を行い、正しい読み書きの習得を図る。また、既習の漢字を使う習慣を身に付けられよう、短文作りや日記等を書く活動を取り入れていくようにする。 ・言葉と言葉の関係性や文の組み立てについての指導を継続し、伝えたい内容をより詳しく表すための修飾語についての理解を図る。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は県・市の平均と比べてほぼ同程度である。 ○漢字辞典の使い方に関する問題は、県や市の正答率より10ポイント以上高い。 ●情報と情報との関係について理解する問題の正答率は、県や市の正答率より低い。	・学校の授業のみならず、家庭学習等でも積極的に漢字辞典を使うよう促し、引き続き漢字についての学習意欲を高めていく。 ・文中の情報同士の関係を正しく理解できるようにするために、段落相互の関係に着目させながら内容を的確に読み取る力の向上を図る。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は県・市の平均より低い。 ●ことわざの意味を知り、正しく使うことに関する問題の正答率は、県や市より低い。	・ことわざに触れる機会を多く設け、意味や使い方を正しく理解できるようにする。また、家庭学習等でも自主的に調べ、調べたことを発表したり紹介したりする場を設け、意欲向上につなげられようとする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は県・市の平均より低い。 ●話し合いの内容を聞き取ったり、調査の結果をもとに話し合う問題に関する問題の正答率は、県や市より低い。	・授業内外において話し合い活動を取り入れ、話し方、聞き方について意識させ、話し合いのルールの徹底を図る。 ・与えられた情報から、共通点や相違点に着目したり、理由を考えたりできるように、ポイントを押さえながら丁寧に指導を行うようにする。
書くこと	平均正答率は県・市の平均より低い。 ●文章を書く問題に関する問題の正答率は、県や市より低い。	・児童の意欲がわくような題材を提示し、日常的に書く活動を積極的に取り入れ、書くことに対する抵抗感を軽減させていく。 ・自分で推敲作業をし、段落構成や文章の内容を読み返すことで、決められた条件で文章を書けているか確認できるようにする。
読むこと	平均正答率は県・市の平均より低い。 ○物語の内容を読み取る問題に関する問題の正答率は、県や市より高く、登場人物の気持ちや性格について捉えたり想像したりする問題については、5ポイント以上県や市の正答率より高い。 ●中心となる語や文を見つけて要約する問題に関する問題の正答率は、県や市より低い。	・読み聞かせや読書の時間の充実を図り、様々な文章に触れる機会を増やしていく。 ・説明文において、情報を正しく読み取ることができるよう、文章を要約する活動を取り入れたりと、大切な語や文を見つけたりする活動を取り入れ、読解力を向上を図る。

# 宇都宮市立海道小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	68.7	66.1	66.4
	図形	60.4	58.9	58.8
	変化と関係	69.1	66.6	67.0
	データの活用	55.7	54.4	54.2
観点	知識・技能	73.8	70.4	70.6
	思考・判断・表現	45.9	47.2	47.5
	主体的に学習に取り組む態度	46.8	47.8	48.8



## ★指導の工夫と改善

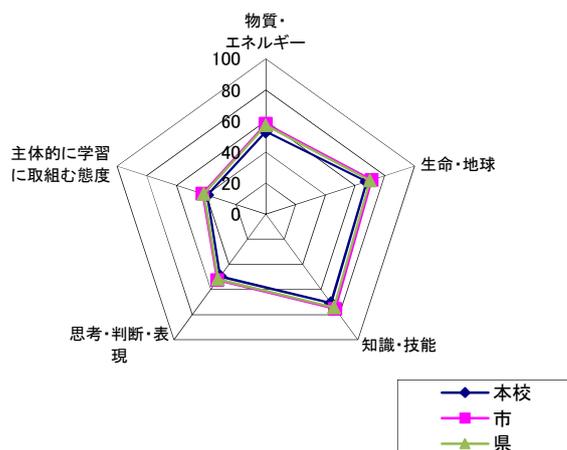
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市・県の平均より2ポイント以上高い。</p> <p>○わり算・計算のきまりの内容は、どの問題の正答率も市や県より高い。また、億と兆・がい数の表し方では、千の位までの概数の表し方を理解する問題で、市の平均より10ポイント以上高い。</p> <p>●整数、仮分数、帯分数、真分数の大小比較の問題は、正答率が市や県よりも5ポイント以上低い。</p>	<p>・基礎・基本事項について、今後も計算ドリルやAIDドリル等を活用して繰り返し解いたり、既習の内容の復習を朝の学習や家庭学習の中で進んで行ったりして、学習内容の更なる定着を図るようにする。</p> <p>・数の性質を理解させ、比較する際に必要なことが何かを理解する機会を設け、丁寧に習熟を図っていく。</p>
図形	<p>平均正答率は、市・県の平均よりやや高い。</p> <p>○角の大きさやいろいろな形では、市や県の平均より高く、特に分度器の中に示された角の大きさの目盛りを読み取る問題では、正答率が90.9%と高い。</p> <p>●面積を求める問題では、市や県の平均より低い。特に、面積の単位の関係を説明する問題では、市や県の平均より10ポイント以上低い。</p>	<p>・身のまわりの図形に関心をもたせ、日常生活と関連させながら、図形についての理解を深め、学習内容の定着に努める。</p> <p>・今後もデジタル教科書や実物投影機などを活用し、図形のかき方の指導をしたり、様々な図形の性質を視覚的に捉え、理解できるようにしたりする。</p> <p>・面積の単位の関係について、単位正方形の1辺の長さに着目させたり、表を用いて単位の関係性に着目できるようにさせたりして丁寧に習熟を図っていく。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は、市・県の平均より2ポイント以上高い。</p> <p>○簡単な場合についての割合の問題では、市や県の平均より高く、特に2つの数量の関係を、もとの大きさの何倍になったかを考えて比べる問題では、市や県の平均より14ポイント以上高い。</p> <p>●伴って変わる2つの数量の一方の値から、もう一方の値を求める問題では、正答率が90.9%と高いのに対して、伴って変わる2つの数量の関係を式に表す問題では、市や県の平均より10ポイント以上低く、正答率も40.9%と低い。</p>	<p>・日常生活の場面の中から、伴って変わる2つの数量の関係を見つけ、数量の関係を表に表したり、表から式に表す活動を取り入れたりとすることで、学習内容の定着を図っていく。さらに、表や式を用いて変化や対応の特徴を考察させ、理解を深められるようにする。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、市・県の平均よりやや高い。</p> <p>○折れ線グラフや二次元表から、必要なことを読み取る問題は、市や県よりやや高く、基本的な読み取り方は身に付いていると考える。</p> <p>●折れ線グラフから変わり方を読み取る問題では、市や県の平均より10ポイント以上低い。また、二次元表を読み取り、必要な情報を示し、その求め方を説明する問題では、市や県の平均より10ポイント以上高かったが、平均正答率が31.8%と低く、根拠を文章で説明することに課題が見られる。</p>	<p>・学習の中で、身の回りの事象についての興味・関心や問題意識に基づき、統計的に問題解決する場面を多く設定していく。</p> <p>・目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目して、問題を解決するために適切なグラフを選択して判断し、その結論について多面的に捉え考察する活動を適切に取り入れていく。</p> <p>・多面的に捉え考察したことを、友達に説明したり、文章に表したりする活動を設定し、根拠をもつことを大切にしていける。</p>

# 宇都宮市立海道小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	53.2	58.1	57.2
	生命・地球	67.9	71.1	70.0
観点	知識・技能	70.9	75.5	74.4
	思考・判断・表現	49.7	52.7	51.9
	主体的に学習に取り組む態度	39.4	42.4	41.7



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、市や県の平均より低い。</p> <p>○「電気のはたらき」における、乾電池を使った作図の問題では、市の平均より6.2ポイント高かった。</p> <p>○「水のすがた」の、沸騰石を入れる理由を答える問題とグラフをもとに水の量と沸騰する温度の関係を記述する問題では、それぞれ市の平均より10.6ポイント、7.4ポイント高かった。</p> <p>●「物の体積と力」「物のあたたまりかた」では、どの問題も市の平均より低かった。</p> <p>●「水のすがた」の水蒸気に関する理解を問う問題では、正答率が市の平均より10.7ポイント低かった。</p>	<p>・その時間のめあてや学習問題をしっかり捉えさせ、児童が問題意識をもって実験に取り組み、予想や結果をもとに理解や考えを深めていけるようにする。</p> <p>・実験以外の学習でも、実物を見たり操作したりする機会をできるだけ多く設け、実感を伴った理解をできるようにする。</p> <p>・学習内容や場面に応じて、ICT機器や視聴覚教材を適切に活用し、理解を図る。</p> <p>・実験のまとめと振り返りを丁寧に行わせ、学習内容の定着を図る。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は、市や県の平均と比べて低い。</p> <p>○「天気の様子と気温」の温度計の記録から天気の変化を推測する問題では、市の平均より19.3ポイント高かった。</p> <p>○「月と星」の方位磁針の使い方に関する問題では、市の平均より11.9ポイント高かった。</p> <p>●「自然の中の水」「1年間の動物のようす」では、どの問題も市の平均より低かった。</p> <p>●「1年間の植物の成長」の気温の変化とヘチマの茎の伸び方の関係を問う問題では、正答率が市の平均より16.6ポイント低かった。</p>	<p>・授業だけでなく、朝の学習や家庭学習における課題でも、グラフから情報を読み取ったり、考察したりする練習問題を取り入れ、活用力を高められるようにする。</p> <p>・実験結果や調べたことをもとに、分かりやすくまとめたり、自分の考えを書いたりする活動や、相手に伝えるように説明する活動を積み重ね、表現する力が身に付くようにする。</p> <p>・観察において、ただ見るだけでなく、目的意識や問題意識をもって取り組めるよう指導していく。</p> <p>・実験や観察の結果をまとめる際は、資料やグラフなどをもとに共通点や差異点、変化の様子などを関連付けて考えさせるようにする。</p>

## 宇都宮市立海道小学校 第5学年 児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「1か月に、何さつくらい本を読みますか」という質問について、11さつ以上と答えた児童の割合は40.9%で、市や県の割合に比べて2倍近く高い。今年度の取組の一つである「読書活動の充実」による学校図書館司書と連携した様々な取り組みの成果が表れていると考えられる。

○「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している」への肯定的な回答が県平均を15.3ポイント上回った。また、「いいえ」と回答した児童の割合が0%であり、日頃より話しやすい雰囲気作りをしていることがこのような回答に繋がったと考えられる。

○「学級活動の時間に、友達同士で話し合っクラスのみまりなどを決めていと思う」に対する肯定的な回答が91%と高く、県平均を7.1ポイント上回っている。学校生活の中で、児童の意見を大切に、より良い学級づくりを目指していることの現れだと推察される。

○生活リズムに関する質問において、肯定的な回答が多く、整ったリズムの中で生活できていることが分かる。

○「だれに対しても、思いやりの心をもってせっている」への肯定的な回答が90.9%と高く、特に「はい」と答えた児童の割合が県平均を3.4ポイント上回った。人権週間やいじめゼロ集会などの取組が、児童の思いやりの心の育成の一助となっていると考えられる。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」に肯定的に回答した児童の割合は18.1%で、県の肯定的な回答より30.7ポイント低かった。全体の場で話す機会を設け、励ましているが、今後も継続していきたい。

●「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」「勉強していて不思議だな、なぜだろうと感ずることがある」という質問において、肯定的な回答が県平均よりも高く、学習に対して強い関心を寄せている児童が多いことが分かる。その一方で、「ぎ問や不思議に思ふことは、分かるまで調べたい」と回答した児童の割合は、県の平均より19.2ポイント低かった。司書と協力し、必要な本の探し方について図書室の利用の仕方を再確認したり、総合的な学習の時間の授業においてインターネットを利用した検索の仕方を学習したりして、調べ学習に対する苦手意識を無くしていきたい。

## 宇都宮市立海道小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
定着を図るための学習活動の充実	単元及び授業の導入の場などで、前学年までの内容や既習事項を確認する機会を設定したり、視聴覚教材を活用し進んで学習に取り組むような学習活動を工夫したりすることにより、定着を図る。	算数において、5年生はどの領域においても、正答率が市・県の平均と比べて高かった。しかし、4年生では、「数と計算」「図形」領域においては、県や市の平均を下回った。
対話的な学びを通して、共に高め合える集団作り	協働的な学び合いを通して、他者の意見や考えに触れ、自分の考えを見直す活動を大切にすることで、深い学びの実現を図る。	児童質問紙調査の「クラスの友達との間で、話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりできている」では、5年生の肯定的回答は95.5%で県の平均より17.3ポイント高いが、4年生の肯定的回答は市や県より低い。
家庭学習への取組	「家庭学習の手引き」や「家庭学習記録カード」等を活用し、計画的に学習に取り組むよう働きかけをするとともに、個別指導により、家庭学習の充実を図る。	「家で自分で計画を立てて勉強している」の質問に肯定的な回答をした児童の割合は高く、4・5年生ともに市や県を上回っている。また、「学校の宿題は、自分のためになっている」は、4・5年生の全児童が肯定的回答をしている。

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語の「話すこと・聞くこと」と「書くこと」の領域において、4・5年生ともに正答率が市・県と比べて低い。また、児童質問紙調査において、「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」と回答した児童は、4年生は66.6%、5年生は40.9%であった。さらに「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」は、4・5年生ともに全員が肯定的な回答をしているのに対して、「友達の前で自分の考えや意見を発表することができる」の肯定的回答は、4年生が36.6%、5年生が18.1%と低かった。	相手、目的や意図、場面や状況などに応じて、自分の考えを分かりやすく表現する（聞くこと・話すこと・話し合うこと・書くこと）力を育成するための言語活動の充実を図る。	授業において、自分の考えを記述する機会を意識的に設けたり、自分や他者の考えに理由を加えて話し合ったりする活動を取り入れることにより、表現力の育成を図る。 また、家庭学習等で視写活動を取り入れたたり、テーマを決めて自分の考えを書く機会を増やしたりすることにより、書くことの苦手意識を軽減していく。